

福岡市春住校区（福岡県）

< 取組の概要 >

高齢者が楽しく暮らせる街づくりの各種活動の一環として、防災についても、高齢者等が徒歩3分程度で避難できるような自主避難場所（一時的な避難場所）の整備や、高齢者等による緊急時の吹笛等のユニークな対策も進めている。

1. 取組開始の経緯等

福岡市春住校区は、老人クラブ、敬老会等を中心として、高齢者が仲良く、楽しく暮らせる街づくりに日頃から積極的に関わり、各種会議においても、参加者が積極的に意見をもち寄り、だじゃれを交えつつ笑いを絶やさず、熱心に討論している。また、ツイストダンス等、地域の活性化につながると思われる事柄も積極的に取り入れ、成功しているところである。

これら各種活動の一環として、防災についても、阪神・淡路大震災において、災害時における自主防災組織の重要性が再認識されたことを契機として、「自分たちの命は自分達で守ろう」をモットーに、同校区の地域防災力を高めるため、平成7年6月、町内会の幹部役員全てからなる自主防災組織（防災会）を設立した。

その後、防災訓練・研修や、他の自治体における自主防災組織の取組状況についての調査研究等を進めつつ、平成11年6月の集中豪雨、15年7月の水害での経験を踏まえ、高齢者等が徒歩3分程度で避難できるような自主避難場所（一時的な避難場所）の整備や、高齢者等による緊急時の吹笛等のユニークな対策も進めている。



春住校区防災会のみなさん

2. 取組主体の構成

春住校区防災会、市等

3. 避難支援の取組状況

(1) 自主避難場所の整備

春住校区では、平成11年6月の集中豪雨等において、浸水が差し迫った緊急時に高齢者等が迅速・確実に避難できる場所が各人の近隣に確保されていなかったことが課題として明らかとなった。また、市が指定している避難所の中には、比較的低位にあるため、風水害時の避難場所としては十分でない

ような場所もみられた。そのため、防災会で検討を進め、まず、校区内の各町内で

- ・ 高層の鉄筋コンクリートの建物であり、構造上、水害時も安全なこと
- ・ 高齢者が普段から行き慣れており、道に迷う恐れのないような場所にあること
- ・ 夜間や休日も含めて24時間対応可能であること
- ・ できれば30～50人程度収容できること

等の条件を踏まえた上で適切と思われる場所を高齢者自身にピックアップしてもらった。次に、同所の所有者に対し、自主避難場所（差し迫った危険を回避するための一時的な避難場所）として使用することについて、校区防災会の幹部が中心となって依頼した結果、快く引き受けていただいた。このような取組を積み重ねた結果、校区内の住民の多大な協力が得られ、各高齢者が3分程度で避難できるような場所に自主避難場所が整備されるに至っている。

現在、銭湯、病院、郵便局、マンション等が自主避難場所に指定されているが、指定等の過程を経て防災会、高齢者、住民との親睦が深まるとともに、これらの建物が、高齢者がコミュニケーションを図る場所として普段から一層活発に利用されるようになっている。

（2）緊急時の吹笛

防災会で、他の自治体における自主防災組織の取組状況等について研修していたところ、阪神淡路大震災では、長田区長田町で生き埋めとなった高齢者がたまたまゲートボールのために普段から身につけていた笛を吹いたところ、付近の者が気付いて救助し、火災等に巻き込まれることなく無事助かったという話を耳にし、緊急時は声を張り上げるよりも笛を吹く方が高齢者自身にとっても負担が少なく、かつ、確実に周囲の注意を喚起することから、これは妙案だということとなり、平成15年9月、敬老クラブの70歳以上の者に笛を計600個配布した。その際、笛の音を聞いたら、「おじいちゃん、どうしましたか」等と声掛けをすることについて、マスコミ等を通じて広報するとともに、地域住民等の会合、研修の場などを通じて浸透に努めたところ、大変好評であった。高齢者だけでなく、小学生等にも有効であることから、同校の全校生徒や新生にも配布している。

この緊急時の吹笛は、防災だけでなく、防犯にも有効であり、また、同じものを身につけ、緊急時にはお互いに助け合うという地域の連帯感を高めるのにも役立っている。今後も、校区内の住民みんながお互いに協力し、助け合えるような、温かい街づくりに努めている。

なお、高齢者や児童（担任の先生、両親等）は、笛の裏に氏名、血液型、掛かり付けの病院等を記載したシールを貼り、緊急時に備えている。

(3) その他

防災会では、御笠川の氾濫で被害を受けている地区において、子供や高齢者を乗せて安全な場所まで搬送できるよう、ゴムボート等を整備することを検討している。

4. 関係機関との連携状況

(1) 市・消防局

市は、設立時に10万円の助成金を出すほか、各種訓練等の際に資機材を貸与している。また、他の自主防災会も含めた、地域防災力の向上に関する出前講座等を実施している。また、消防局も、災害に強い地域づくりのための講座や訓練を各校区に対して年1回実施している。

一方、校区の防災会は行政に頼らず、自分たちの地域は自分たちで守るという自立心が高く、避難勧告等の避難情報については、発令されれば防災会が状況を判断しつつ責任を持って対応するから、市としては、発令のタイミングが遅れることだけではないようにと要請されている。そのため、そのような防災意識の高さをいかして、地域防災力が最大限高まるよう、避難情報の発令・伝達に努めるとともに、防災会を中心とした積極的な自助・共助による対応では困難な場合における対応に重点を絞って取り組むこととしている。

5. 訓練の実施状況

小学校の年2回の防災訓練では、校区内12の町内会長を中心に地元住民と一緒に参加している。また、博多区の水防訓練にも校区防災会として数十名が参加している。



訓練時の状況

6. 今後の課題等

- ・ 隣接する校区内で浸水想定区域内等に居住する者のうち、春住校区の自主避難場所等に避難することが合理的なものについての避難対策を進めていく必要があることから、校区間の連携強化、校区の見直し等に努めている。
- ・ 防災会が活発に活動し、校区における地域防災力を高めるにつれて、校区の区域と、警察（交番）等の管轄区域等が異なることに伴う、関係機関間での情報伝達、避難支援等の連携についての構造的な弊害が明らかとなってきている。そのため、関係機関との連携を深めつつ、校区の見直し・最適化等にも取り組んでいるところである。
- ・ 校区ができてからのこれまでの50年を振り返りつつ、今後の50年を見据えるに、地域における人と人のつながりを中心とした、よりよい街づくりを進めていくことが、地域防災力の向上にもつながることから、引き続き、温かいコミュニティの形成に努めていくことが肝要である。